

第3回静岡市文化振興審議会 議事録

日時：令和5年12月26日(火)14:00～16:00

会場：上下水道局庁舎 7階 71 会議室

出席者:委員:別添名簿のとおり

文化振興課：望月課長、三浦補佐、宮崎係長、野末主査、木南交流研修職員、
福原主査

まちは劇場推進課:後藤係長

【議題】

・静岡市文化振興計画 後期実施計画 令和4年度事業実施評価総括について

【報告】

・静岡市民文化会館 再整備事業進捗報告について

【記録】

	内容	
14:00	開会 課長挨拶	三浦補佐 望月課長
14:02	会長挨拶	平野会長
14:10	議事録署名人1名:田中委員 【議題1】 静岡市文化振興計画 後期実施計画 令和4年度事業実施評価総括について 資料説明 資料3ページ 資料1・2 令和4年度 後期実施計画 評価総括書について説明。 ・今回は修正案の提示 ・第2回における主な議論 ①人づくりにおける本市にゆかりのある人物等の伝承 ②人づくりにおける駿府匠宿の役割 ③魅力づくりにおける芹沢銈介美術館・中勘助文学記念館の取組 ・委員の皆様のご意見を受けて、平野会長・佐々木副会長のご意見を仰ぎながら総括書の内容を再考。 ・修正案としてまとめたものが3ページ資料1 修正における全体のポイント ・今回の評価総括書は第1期静岡市文化振興計画における最終年度評価となることから、令和5年度から始まっている第2期静岡市文化振興計画に盛り込まれた新たな視点や方向性に繋がる内容に修正。それに加え、国の文化行政における動きに視野を広げ、令	平野会長 福原主査

和2年度に施行された文化観光推進法(文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律)や改正博物館法を踏まえた内容としている。

事業評価というミクロの視点に加え、第1期の静岡市における文化施策の評価というマクロの視点で総括し、第2期にどのように繋げていくか、どのような点を考慮すべきかというところにポイントを置いて案を作成。

・修正箇所

資料4ページ 資料2 新旧対象表をもとに説明

①創造的人づくりにおける 改善すべき点・今後の事業に期待すること

・ここでは、本市にゆかりのある人物や地場産業への理解の深化とそれを伝承していく人づくりへの展望を明記。

・駿府匠宿の表記については所管課である産業振興課と協議。

・駿府匠宿にかかる「本市の地場産業…役目」という箇所は静岡市工芸と歴史の体験施設「駿府匠宿」条例 第1条に記載されている設置目的の文章を引用。

・第2回審議会において「駿府匠宿が観光要素に留まらず、人づくりの場として機能していくことが望ましい」という内容が議論されましたことについて、駿府匠宿の指定管理業務仕様書に明記されている内容を一部抜粋して読み上げ。

・駿府匠宿 指定管理業務仕様書 3ページ

目指す施設の姿

駿府匠宿の体験を通じて、地場産品や伝統工芸品を身近に感じてもらい、それらが日用に繋がることで、市の伝統工芸を守り、その技術が未来に繋がることを期待する。

このように技術を伝承していくための人づくりを施設の目指す姿のひとつとしており、本総括書における「今後の事業に期待すること」の方向性と相違がない旨、所管課に確認が取れていることを報告。

②創造的魅力度づくりにおける 改善すべき点・今後の事業に期待すること

・修正前 中勘助や芹沢銈介のような静岡市にゆかりのある人物への「関心度が低下」という表記がなされており、公にする文書として客観的なデータの必要性が問われていた。

修正におけるポイント

・中勘助文学記念館及び芹沢銈介美術館については、過去10年間の来館者数の推移を元に表記を修正。

・第2回審議会において、佐々木副会長が発言されていた博物館に新しい要素を加えていく視点を追加。

・文化観光推進法や改正博物館法に盛り込まれている考え方を反映。

修正点として3点説明

・第2回に議論された「関心度低下」の表記について精査するため、文化振興課において中勘助文学記念館と芹沢銈介美術館における過去10年間の来館者数推移を報告。

※令和5年度は中間集計値

推移を見ると、中勘助文学記念館については、横ばいが続いているが、近年は、ライトアップなど新しい要素を追加した関連イベントの実施にも取り組んでおり、月別の来館者数を見ると関連イベントを実施した月は大きく来館者数が増加している。芹沢銈介美術館についても令和3年度から年間の展覧会開催回数を3回から4回に増やしたことから来館者数は増加している。

・推移から見て「関心度が低下」と言い切ってしまうのは、適切ではないと判断し、文言を外す対応とした。

・2点目は、中勘助文学記念館と駿府匠宿という表記を「市内における文化施設等」という表記に変更。理由としてはあとに続く内容が特定の施設に限ったことなく、今後あらゆる施設に求められていく考え方であることから、市内における文化施設等という表記に修正。

・3点目、市内文化施設等続く説明において今後キーワードとなる考え方を3つの要素に分けて追加。

・1つめ

「文化観光の視点に立って若年層を中心とした新規層に印象付けるため、既存のものを活用しつつ、新しい要素を積極的に追加した取り組みを展開」→第2回審議会時の佐々木副会長の発言を追加。

・2つめ

「各施設の連携を強化し、それぞれの特色やノウハウを上手く活用」→改正博物館法における今後の博物館の在り方における文言を反映。

・3つめ

「文化と人、文化と社会をつなぎ、地域に還元していくことが望ましい」→文化観光推進法における、文化振興による観光・経済の好循環の創出、社会への再投資という理念を盛り込む。

・事業や施設運営を行っていく上で共通認識として持っておきた

い考え方として盛り込んでいる。 ③全体評価 全体評価における②公共施設における事業展開と創造的活用箇所を中心に修正 ・上段の人づくり・魅力づくりの修正を踏まえて、考え方や方向性をそろえる形で修正。 ・その他、創造的人づくりの評価すべき点の箇所で、前後の整合性を取るために文言を若干修正。 ・全体に目を通して表記の抜けや修正等がありましたら、ご意見いただきたい。 ・静岡市歴史博物館が今年開館したが、それについての言及はしなくてよいか。 ・令和4年度の評価だからではないか。 ・令和4年度は建設事業が上がっている。 ・了解。 ・人づくりの「取組」は「取り組み」と表記した方がよいのでは。 ・修正対応する。 ・人づくりの修正後の最終行は、駿府匠宿に関する自身の意見であるが、観光に徹するのではなくものづくり、人づくりの場としての方向性を考えていただいているのは感じている。だが、現実的に具体的な中身はどうしていくのか、現在は1・2時間の体験教室だけで使い方が終わっており、観光で終わってしまうのではないかという心配がある。 ・文言の表記は所管課である産業振興課と協議を行った。 ・「観光の役目にとどまらず」という表記を取った理由 駿府匠宿の設置目的が地場産業と地域の歴史への理解を深めるとともに地域経済の活性化を図ることとなっており、元々観光のみを目的に設置されている施設ではないと理解できるため ・指定管理仕様書の中にも施設として目指す姿の中に伝統工芸を守り技術を未来につなげていくことが盛り込まれていることから、駿府匠宿としては人づくりの事業に力を入れていきたいと考えている旨確認できているため。 ・駿府匠宿を立ち上げた経緯として観光というよりも人づくりであるとか地場産業を盛り上げていこうという目的で経済局が関わって立ち上げている。現在は、若い指導者も集まってきており、駿府匠宿を核にしてものづくりを進めていこうという意識で、施設周辺を含めて変わりつつある。元々目的としては人づくりという	平野会長 久保田委員 成島委員 福原主査 久保田委員 田中委員 福原主査 吉川委員 福原主査 望月課長
--	--

部分もあるということをご理解いただきたい。 ・理解はしているが、実際に木工を学びたい学生が行ったとしても、1時間単位の対応でしかない。実施にプログラムとして半年間学べるであるとか、あるいは1年、2年かけて学んでいくとかそういった体制が全然取られていない。人づくりの場とは言っているが、現状のシステムの中ではやりにくくなっている。 ・実際、人づくりの場としての表記があるもののまだ不安であるという意見だろう。 ・静岡の伝統工芸を伝えていくのが観光客ではなくて、ちゃんと学ぼうとする若い人たちであって、できれば静岡以外の人も来てほしい、それくらいの中身にしてほしいという想いを込めて発言させてもらった。そこまでの奥行をもった考えを盛り込んでほしい。 ・AI のことも考えていかなければならない。膨大なデータをもとにしながら次のステップをどう踏もうか、時間をかけずに色々なアイデアを出してくれるはずだ。 ・観光をずっとやってきた人間だが、1・2時間の細切れの対応をされていてその時間に浪費してしまうということだと思うが、観光というのはそういうものでもある。観光地で起こっている観光公害であるとか、観光することによって俗化するであるとか、素晴らしい観光地だったところに観光客がすごく大勢行ったことで対応がところてん方式になり、一つ一つの価値が棄損していくケースが出てきている。ここ数十年は文化を観光に使って、外国人に日本のいいところを見せてそれを商売にすればいいんじゃないかというようなプラス面で来ているが、現場においては疲弊しているところもある。そういったことがあり得ますよという指摘であると思う。市の方もそういったポイントを理解していただければと思う。 ・産業経済の発展には若い人が静岡に集まって来なければならない。それは観光ではなく教育であると思う。それを企業に任せておくのではなく静岡県として、静岡市として若い人を教育する場を作っていかなければならない。金沢の工房ではそういった技術を学ぶことができるので、全国から人が集まっている。美術工芸であれば金沢でいいけれども、静岡は産業工芸としてそのような人づくり・ものづくりを教える場を作らなければならない。だが、観光がなければ収入を得られないので必要であるということも理解している。 ・静岡市も創造舎も文章にはうたっているが、どこまで深く考えているかというのはもっと別のところで議論していかないと難しいかもしれない。大学や専門学校等も一体になって考えていかなければ	吉川委員 平野会長 吉川委員 久保田委員 吉川委員 平野会長
---	--

において活動そのものが減り、同時に活動する場も疲弊した。」のほう ほうがよいのではないか。 ・全体評価 ② 3行目「既存のものを」を「既存の取り組み」に修正 のほうがよいのではないか。 全般的なことと言いますと、先ほどの工芸の人づくりの話で、熱 心な議論をいただいたが、静岡市は文化振興というエリア(文化振 興課)が扱っているエリアが、従来型の文化振興となっている。一 方で金沢市は「創造都市の政策ブレーンが大きいので、特にユネ スコの創造都市ネットワークの工芸の分野に加盟しているため、工 芸もクラフト産業振興課があるなど相当力が入っている。全国から 若手の作家志望の人たちが集まっている、あるいはそれをマー ケットにのせるようなそういったことを民間と一緒にタイアップし てやっている。そういった取り組みが文化観光に影響している。高 松市では、創造都市推進局という局を作って、産業振興、文化振 興、スポーツ振興など縦割りのものを横断的に調整する局を作っ てもらった。私はそこの審議会の会長を約10年やっていたが、そ ういうところでも工芸がテーマになるんです。今は文化振興課の 方は悩んでいる、匠宿は産業振興課が所管している。所管してい るところを隣の方からコメントするような形になってしまうので、 あまり良くない。しかも産業振興課からしたら隣から余計なことを 言われたくないというのもありますので、調整しないとならない。 本来的には創造的まちづくりという広い概念では、文化と経済・観 光は密接であるから包含的に議論して、総合的な施策に持ってい けばいいだけの話である。そういう意味ではステップを1つ上げる というか、政策のフレームづくりを再考するというような課題が出 てきているかなと感じた。	佐々木副会長
ありがとうございました。根本的な課題の的を射たご意見をいた だいた。吉川委員の抱えていらっしゃる課題に対応していくには、 先進事例をいかに学びつつ、静岡市そのものの文化政策・経済政 策・観光政策をどういうふうに変えていかなければならないのか 大きなテーマが見えたような気がしている。	平野会長
ありがとうございます。また、先ほども意見させてもらったが、AI ってどうするのという話題だが、静岡市でどうしていくのか、近々 の課題になってくるのではないかと私は思っているが、事務局と してはどう考えているか。AI を処理できるというか、考えられる 人材が今後必要になってくるので、静岡市もこれから避けては通 れないと感じている。どうするのか答えを出していかなければなら ないと感じているので、課題として取り上げていただきたい。	吉川委員

文化の面で静岡市においてどこまで議論されているのか、私も詳しくないのだが、様々な部署で AI をどのように取り入れていくか議論、検討されているだろう。1つのルールづくりに向かって、世界基準のルールづくりが進んでいる。それを文化にどうひきつけて考えていくかという議論になるかと思う。 世界では議論がされている最中で、これからどうする、我々はどうすると考え出した途端に遠くなってしまう感じがする。ある程度の組織や企業でないとできない。個人的に使うとしたら例えば畑をもらったとして、それをどう使おうと素人が考える前にAIに聞く。地面の温度とか熱とかを測りながらいつ植えたらいいのか、いつ取り入れたらいいのか、そういう資料が既にあると思うので、そういったところでは活用できる、むしろそういったところでしか個人では活用できないのではないかと思う。文化だから産業経済だからではなくて、静岡市の規模であれば当然使いこなせるはずだと思っている。それを考えなければならないと思っている。 その分野の先端研究をなさっている伊藤委員、ご助言ください。研究レベルでは画像解析などに使っていて、まちのにぎわいにおいて人の表情がどういう風に影響するのか、楽しそうな人が多いといいかどうか、にぎわっている感じはするけど、親しみのある感じはしない、一人でいる人が多い方が、自分もいてもいいんだという感じを受けるなど、そういう論文を書いている学生もいた。人間の骨格推定、どういう姿勢をしているかという研究に使ったりもしている。一方で最近はコンペの審査員などをすることも多いが、そこで生成AIを使った作品が出てきたときにどういった扱いにするかというのは議論になる。今のところは「受け付けない」ということが多いが、一方でそれをどういう風にクリエイティブに使いこなしていくかというのも今後の課題になってくるのではないかと思っている。まだそのルールが決めづらいので大歓迎という風にはやりづらい部分がある。誰かが作ったものを学習データにしているという意味で著作権的に判断が難しい部分もある。 実際に市の部局においては、生成AIを使いながらそれをアイデアのもととしながら色々な取り組みをしているのか、情勢を見ながらどういうふうに使っていくのかという議論はされているのか。 文化振興課、文化の中の話では、AIという言葉はあまり出てきていないというのが正直なところ。デジタル関係でいうと行政DXという面で手続きや業務の簡素化・効率化を推進していくという議論は進んでいるが、文化の視点でいうAIの議論は進んでいない。観光分野でビックデータをどう考えていくかというのは…。	平野会長 吉川委員 平野会長 伊藤委員 平野会長 望月課長
--	--

市の方でAIを使って業務に導入できないかという検討をするプロジェクトチームは存在している。ただ、一般的に今行政で使われているのは、あいさつ文を作文したり、極端な話ではあるが、チャットGPT に「文化振興施策、何かいい案はありませんか。」と聞けば答えが返ってくる。そういった形でプライベート的に使用している職員は多い。また、AI よりもビックデータの活用の方が進んできていて、観光分野では WiFi のデータを使用したりであるとか、Yahoo さんとかの携帯電話のビックデータを使った動向実態調査を使った取り組みが進んでいる。AIの取り組みが充分進んでいるかというとは充分ではないと思っている。	後藤係長
よく分かりました。伝統工芸を伝承する先人の知恵や技術であったり素材の現状などは、今のうちにデータ化しておかないと繋がっていかない。匠宿の若い人が頑張っているのは分かっているが、ベースをもっと作ってあげないといけない。そこに AI を活用できるのではないかと考えている。ものづくりの静岡だからこそ世界のデータではなく、静岡のデータをきちんと残すことをしていくべきだと思っている。	吉川委員
スポーツ分野ではビックデータが早くから研究・活用されている。伝統工芸においてもビックデータの活用があるが、それでもなお人間が伝えていかなければならないものもあると思うので、どういう風に発展していくかという部分もある。	平野会長
佐々木先生が仰った、静岡がこれからどうなっていくべきかというのが重要なところで、金沢が先進的であると同時に金沢は地方都市でいうとワンアンドオンリーであると思う。京都は、地方都市ではないからやはりワンアンドオンリーである。たとえば料理の世界でいうと静岡のたくさんの料亭の人間が京都に修行に行く、それによって日本料理が広まる、だが、どうしたって静岡は中心にはなれない。工芸のことを考えたときに静岡は戦前は金沢と比肩しうところがあったが、塗り物にしても静岡は漆をやめてカシュー漆にした。増産はできたけれど残念ながら金沢と差がついてしまった。一方で金沢は当時苦しんだが、頑張ったことによって今でも伝統として残っている。そういった中で静岡は何が強みなのか、市として考えていかなければならないところである。それは産業という工芸ではない路線でいくのか、もう少し上のレベルで検討していただきたい。今あるものの中で何とかしようというのは前市長に言わせれば「あるもの磨きをしましよ、ないものねだりはやめましょ」というのをやっていたと思うが、次に我々が何を目指すのか命題として持っていかなければならないのではないかと	久保田委員

15:40	思う。その時に「金沢いいよね」と言って金沢の方にキャッチアップするということでもないと思っている。全体としては文化を観光化してはだめなんだという意見に対して思うのは、今この上下水道局庁舎のビルの中にある料理専門学校で和食の生徒がほとんどいなくなっている。和食は今世界遺産だと騒がれているが、実際には和食を学んだ生徒の行く先の給料が安いのでやりたがらない。我々のような料亭はすごく苦労している。それをどういう風に解決するかというと、儲かるしかない。儲かるには人が来てごはんを食べてもらうしかない。そうして考えていくと観光という形で人に来てもらったり体験してもらうことは非常に重要なことだと思っている。これは工芸でも工業でもいえることであると思う。誰かが買ってくれる、見てくれる、体験してくれないと経済は回らないので、そこは現実的に考えていかないと難しいのではないかと 思っている。 観光がだめという訳ではなく、観光に特化してはいけないということ言いたい。人を呼ぶということは観光でなくても、静岡はもともとのづくりをしている中小企業が多いので、中小企業にもっと注目すべきであって、中小企業に入ってくる若い人を増やすべき、増やすために行政がもっと支援していかなければならないと思っている。 だいぶ意見が深まってきたので、一旦ここまでの意見を事務局で精査させて欲しい。先ほど文化振興課の望月課長よりお話もあったように他部署に意見を届けてくださるという意見もあるので、一旦そこはお任せしたい。 改めて、評価総括書に戻っていただいたときにほかにご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。 —その他意見なし— 本日、皆さんにいただいた意見を再度修正し、令和4年度の評価総括書とさせていただきますと考えます。本日の議事は以上になります。事務局の方から連絡事項があればお願いします。 ・静岡市民文化会館 再整備事業 進捗報告について ・資料3をもとに説明。 ・PFI方式を採用して今まで実施してきたが、発注方法を変更して実施することとなった。(新聞報道のとおり) ・経緯と今後の方針・改修内容等について担当より説明。 ・PFI方式から発注方法を変更した経緯について 〇物価高騰等の社会情勢を背景にコスト圧縮を図る必要性が生じた。工事費における物価高騰の影響から改修内容の見直しを行っ	吉川委員 平野会長 各委員 平野会長 三浦補佐 野末主査
-------	---	--

た。

○その結果、耐震改修や既存設備の更新といったいわゆる大規模改修が中心的な内容になった。

○上記内容に変更になったことから、PFI方式のメリットを発揮できる余地が限定的となった。

○PFIによる設計・施工・運営の一体発注のメリットが少なくなり、一体発注にすることにより入札に参加する事業者が限定されるというデメリットの方が上回ってきた。

○設計施工と運用事業者の募集を切り離して公募することとして、市にとって設計施工と管理運営のそれぞれにおいて最適な事業者を選定することが重要であると判断し、PFI方式から今回の発注方式に変更することになった。

○PFI方式の場合は、設計事業者、施工業者、運営事業者が1つの会社を作って入札に参加することになる。その3者が知恵を絞って予算の中で工事をどうするか、運営から見てこういう仕様がいいんじゃないかということを会社の中で議論してもらい、知恵を出してもらい、民間の技術力を業界間でタッグを組んでもらい、よりよい文化会館を、ホール運営を含めて考えてもらうというのが今回の狙いであったが、予算が縮小していくとなると民間企業が發揮できる内容が限定的になってしまう。やれる工事をきっちりやるということに重きをおくと、民間企業に提案していただく部分は小さくなってしまう。そういった経緯も踏まえて、PFI方式が効果を發揮できるのは少ないと判断し、発注方式を変更するに至った。

・改修内容の見直しについて

・資料7ページ・8ページをもとに説明

・ロビーの拡張…取りやめ

・広場の改修…いったん取りやめ

(→今後新たな改修ができるか検討)

・市民からの意見が多かった、トイレ増設・洋式化・バリアフリー化・駐車場からの動線・大ホール、中ホールの座席更新は重視して改修。

・舞台照明・音響設備のリニューアルも実施。

・会議室の一部を練習室に改修。

・改修の本質は変わっていないため、「静岡市民文化会館再整備基本構想・基本計画」の変更は行わない。

・ロビー・広場については、ハード面では改修は行わないが、ソフト事業の再考により活用していく余地はあると考えている。

	・静岡市民文化会館 再整備事業の進捗について ・令和6年2月末まで基本設計業務 …変更になった内容で引き続き対応 ・工事費のコスト縮減 …変更になった内容で再計算 ・改修内容の見直し部分について関係機関との再協議 …令和6年2月末まで ・令和6年度 実施設計 ・令和7年度～令和9年度 改修工事 ・令和7年度～令和8年度 休館 (当初公表しているスケジュールと変更なし) ・令和8年度末…一部開館 ・令和9年度末…全面開館 (当初公表しているスケジュールと変更なし) ・圧縮できる経費はどれくらいか。 ・当初は建物 140 億円、広場・地下駐車場に20億円、合計 160 億円を想定していた。この総額を圧縮していくところから事業が始まっている。市の財政状況と比べながら進めており、具体的な金額はこれから出てくるところだが、当課としてはおおよそ 120 億円をめどに想定している。 ・広場は今の図面だと芝生が敷いてあるようなイメージになっているが、変更後は現状のタイル貼りと変わらないというイメージでよいのか。 ・タイルの補修等を行うが、見た目としては現状と変わらない。 ・使わせてもらう側としては、今の広場は平らじゃない。段差がある。今回の改修でそれが解消されるというイメージだったが、そこはどうなるのか。 ・段差の改修は、地下に駐車場があるため形状を変えるというのは現状難しい。 ・承知した。	久保田委員 野末主査 久保田委員 野末主査 久保田委員 野末主査 久保田委員
16:00	事務連絡 閉会	三浦補佐

署名（会長） 平野 雅彦

署名（委員） 田中 豊 稔